

政治・経済定点観測レポート

## ウズベキスタン NOW

【第7号:2009年9 - 10月期】

\* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

### 経済発展実績

#### 2009年1～9月期、ウズベキスタンの経済成長率はプラス8%

今期の GDP は 8 %、工業生産は 9.1%、農業生産は 3.3%、サービス売上額は 15.8%、建設作業遂行額は 33.5%の成長となった。国家予算は GDP 比 0.2%の額の黒字で執行され、投資実施額は 28.3%の成長が確保された。うち、外国直接投資の額は 2.1倍に増加した。

インフレ率は公式推計によれば「予測のパラメーターの枠内にとどまった」。また、経済危機対策と輸出業者支援策により、貿易収支の黒字が確保された。

#### ADB がウズベキスタン経済の成長予測を確認

アジア開発銀行（ADB）はウズベキスタンの GDP 成長予測を 2009年7%、2010年6.5%に据え置いた。ADB 専門家はまた、2009年のインフレ率が 12.5%になるというこれまでの予測も確認し、来年度のインフレ率予測を 13%から 11%へと引き下げた。ウズベキスタン政府の推計によれば、本年度の GDP 成長率は 8%で、インフレ率は 7～9%止まりである。昨年度の GDP 成長率は前年度比 9%、インフレ率は 7.8%であった。ADB 専門家は 2009年下半期もウズベキスタンの貿易収支の黒字は維持されると見ている。

### 二国間関係

ウズベキスタン大統領の訪問中にウズベキスタンとオマーンが石油化学部門で一連の協力文書に調印

「ウズベクネフチェガス」と「オマーン石油会社」の間で石油化学部門における協力拡大協定と、石油化学案件共同投資の可能性研究についての相互理解に関する覚書が調印された。

案件の一つは年産 5 万トンのポリ塩化ビニール生産施設の建設を予定している。ま

た、ウズベキスタンに年産 30 万トンのセメント工場を建設するプロジェクトの実現に協力する内容の覚書が調印された。セメントの内訳は止水セメント 10 万トン、耐硫酸塩セメント 10 万トン、ポルトランドセメント 10 万トンである。

### **ウズベキスタン鉄道企業がアフガニスタンで鉄道を建設**

国有株式鉄道企業 (GAZhK)「ウズベキストン・テミル・イウラリ」はアジア開発銀行の 1 億 6,500 万ドルのグラントによって 2011 年 6 月までにアフガニスタンで鉄道を建設し、延長 75km のハイラトン - マザリシャリフ線を開通させる。このグラントを受ける契約は ADB とアフガニスタン財務省の間で調印された。同プロジェクトの枠内では、ハイラトン駅の既存インフラの近代化も実施する。同駅を經由してアフガニスタンの輸入量の約半分と人道支援貨物の相当量が輸送されている。作業は 2009 年 12 月より開始する可能性があり、本事業支援のため、ウズベキスタンとアフガニスタンはこのほど鉄道協力の分野で一連の二国間協定に調印した。

### **投資政策**

#### **2010 年、経済特区「ナヴォイ」で外国投資家による 16 のプロジェクトが開始**

韓国、中国の一連企業が参加する総額 20 億ドルのこれらの案件は、自動車産業及び電機工業用の組立パーツの製造、建材、繊維製品の生産を予定している。現在すでに、経済特区内での投資案件の実施に関して外国パートナーとの間で総額 5 億ドルを上回る 37 件の協定が締結済みである。

#### **ウズベキスタンでは全所有形態の銀行に社債発行を許可する意向**

現在、ウズベキスタンで社債を発行できるのは公開株式会社だけだが、立法議会(下院)は法律「有価証券市場について」に相応の修正を加えることを第 1 読会で承認した。法案は上院に提出され、2009 年 11 月に審議されることになっている。法人は 2015 年 1 月 1 日まで、預金もしくは債券購入に充当したことから得る所得への課税を免除されている。

#### **中央銀行が韓国の新韓銀行に駐在事務所開設とウズベキスタン国内での活動を許可**

新韓銀行は「Shindong Enercom」社を支援し、同社はウズベキスタン国内の韓国商社を支援している。

#### **ウズベキスタンの景気インデックスが若干の低下傾向を示す**

独占禁止国家委員会付属独占禁止政策改善センターが 2009 年 9 月の月例景気インデックス(IDA) APIC 50 を作成した。このインデックスは、ダイナミックに発展する経

済方向を代表する工業とサービス分野の大中組織 50 のアンケートに基づいて算出される。算出法は、この種のインデックスの最も普及している 2 タイプ PMI（購買担当者指数）と IFO 景況感指数（ドイツ）方法である。今回算出された数値 21 は、この数値が 21.4 だった 8 月に比べて景気のやや低い発展動向を示している。数値が示しているところによれば、工業セクターでは 9 月は 8 月に比べて若干の景気低下が見られる（23.2 に対して 18）一方で、サービス分野においては 8 月に比べて成長率が増大した。

## **エネルギー・セクター**

### **生産物分与協定参加者の課税待遇に変更**

ウズベキスタン大統領は「税法典」第 256 条に変更を加える法律に署名した。9 月 11 日に効力を発した改正により、生産物分与（PS）協定の海外参加者の課税待遇は、国内の地下資源利用者と同じになる。海外投資家は PS 協定に別の規定がなければ、これまで同様、ウズベキスタン居住者に定められている税率により利益税、土地税、水資源利用税、単一社会税を納付することになる。物品税と地下資源利用税は、PS 協定の条件にかかわらず、ウズベキスタン居住者と同じ税率で納付されることになる。実施中の PS 協定参加者には、物品税の優遇が PS 協定発効から 10 年を経過するまで延期され、新税率による物品税の納付はそれ以後になる。

### **増える石炭の生産**

ウズベキスタンでは 2009～2010 年にスルハンダリア州のバイスン、シャルグン両炭田の近代化が実施される。総額 1,500 万ドルの案件により、産炭量を 2 年間に 2 倍（年間 20 万トン）に増やす。2011～2014 年には近代化の第 2 段階に入る計画で、これらの炭田での産炭量を年間 40 万トンまで増やす計画である。プロジェクト資金は「ウズベキスタン復興開発基金」からの融資、「ウズベクウーゴリ」社、「シャルグンクミル」社が」出資する。専門家の推計ではウズベキスタンの石炭需要量は年間約 400 万トン。石炭の主要ユーザーは依然として国有株式会社「ウズベクエネルギー」の傘下企業で、その需要量が年間約 300 万トンになる。

### **電力法が発効**

この新法は国内における電力の生産、輸送、配給、販売、消費部門の諸関係調整を目的として、10 月 1 日に発効した。電力部門における国家政策や活動免許、全国送電線網の法的地位、電力市場の組織などの諸問題をカバーしている。電力法はまた電力の生産、輸送、販売にかかわる管理と取引関係へ市場原理およびメカニズムの導入を定めている。

### **住民用天然ガス料金を10月1日から23%値上げ**

財務省が承認した新価格表によると、ガスメーターがある場合のガス1m<sup>3</sup>の価格は36.6スムから45スムへ引き上げられた。ガスメーターがない場合のガス10m<sup>3</sup>の価格は、炊事用と湯沸かし用が778スム(値上げ前は632.52スム)、暖房用が360.77スム(値上げ前は293.31スム)である。

### **「ウズヴォドエネルギー」が2009年12月にアハングランとアンディジャンの小規模水力発電所の運転開始を計画**

現在、アハングラン水力発電所では発電設備の据付が最終段階に入っており、11月末～12月初めに調整運転が始まる。アンディジャン水力発電所では11月末までに発電設備の据付が完了する予定。これらの設備をターンキー方式で納入するのは中国のCNEEC(中国電工設備総公司)、建設・据付工事を担当しているのはウズベキスタン農業・水利省の下部機構である。プロジェクト資金は、政府保証により提供された中国輸出入銀行の融資(1,593万ドル)とウズヴォドエネルギーの自己資金、国家予算の資金により行われている。

### **「ウズベクエネルギー」が2009～13年に総費用2億300万ドルで送電線の近代化と新規建設を国内各地域で実施する**

政府決定により、総延長601.4kmの幹線送電線建設に関連する5案件の実施を速める工事予定表が承認された。

### **その他のセクター**

#### **ナマンガン市に大宇とシボレーの自動車用ヘッドライト・ランプを製造する合弁企業「UzChasys」が誕生**

工場では年間25万セットの自動車ヘッドライトとランプを製造する。この生産量で「GMウズベキスタン」とアフターサービス網の需要を国内およびCIS諸国市場でカバーできる。

合弁企業UzChasysは「ウズアフトサノアト」(出資比率70%)と韓国企業「Chasys Co., Ltd.」(出資比率30%)により設立された。工場では、GMウズベキスタンが生産するNexiaとMatiz用に18種類の照明装置が製造される。将来的にはシャシ装置とジャッキの生産にも乗り出す計画である。

#### **タシケントの第5回国際綿花見本市で2009～10年収穫の綿繊維100万トンの輸出契約を締結**

ウズベキスタン産綿花の主要な購入相手はバングラデシュ、イラン、中国、韓国、

モルダヴィア、アラブ首長国連邦、パキスタン、ロシア、トルコ、日本の企業となった。同見本市には世界 34 カ国より 276 の企業が参加した。第 1 回の開催は 2005 年 10 月であり、ウズベキスタンでは毎年、約 350 万トンの原綿と 100 万～120 万トンの綿繊維が生産されている。

#### **ウズベク・英国合弁企業「アマンタイトウ・ゴールドフィールズ」が 2010 年第 1 四半期に金抽出工場第 2 期工事に着手**

本プロジェクトは現在の生産設備を近代化し、追加の硫化鉍処理ラインを建設するもので、工事完了は 2011 年代 1 四半期の見込み。これにより 40 万トンの酸化鉍を処理し、12 年間にわたり年間 10 万オンスの金を生産できるようになる。「アマンタイトウ・ゴールドフィールズ」は英国「Oxus Gold」社（出資比率 50%）、ウズベキスタン国家地質・鉍物資源委員会（40%）、ナヴォイ採鉍・冶金コンビナート（10%）によって設立された。ウズベキスタンの産金量は年間約 80 トン。

#### **タシケントの世界経済・外交大学(UWED)とタシケント情報技術大学(TUIT)が Microsoft 社と協力協定に調印**

協定の目的は、両大学の教育・研究活動の分野で将来性のある共同プロジェクトを実施すること。これには Microsoft IT Academy, Innovation Center, その他のプログラムの導入に関するプロジェクトの策定が含まれる。